

על-פלי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX093(692)8592

所在地 〒802-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内

ホームページ <http://bible-school.name/> E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbq.jp

湖の上を歩く

理事 青木順之助

・・イエスが「来なさい」と言われたので、ペテロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ・・

(マタイ伝 14 章 22～33 節)

この聖書の物語を読みますときに多くの人が思い起こしますのは、ドイツの文豪ゲーテのことです。エッカーマンという人が作りました「ゲーテとの対話」という書物があります。この書物の中で、ゲーテはエッカーマンに対し「私が最も愛している物語の一つは、このガリラヤ湖の出来事の物語である」と、申しております。

それは、人間というのはどんな困難なことを企てていても、そこで確固たる信念と大いなる勇気さえあれば必ず勝利する。しかし、ほんの僅かでも疑いが忍び込んで来ると、その企ては失敗するということが述べられているのです。教えられることの多い内容であります。

逆風に妨げられて

弟子たちはイエスに送り出されて、湖の上で逆風に遭います。それは、夜でありました。逆風に妨げられてなかなか舟が進むことが出来ない。そこに、イエスが突然登場なさった。けれど、弟子たちはそのイエスを、イエスと認めることが出来ない。幽霊と思ってかえって恐れてしまう。イエスであると分かったときに、いささか慌て者であるかも知れないペテロが「主よ、あなたでしたら私に命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペテロは舟から降りて水の上を歩くことが出来た。しかし、逆風を見て怖くなったときに溺れかけた。そこで、ゲーテは真つすぐにイエスに向かって水の上を歩いていたペテロの信仰は、まことに大いなる勇気を持っていたのだと理解しました。しかし、逆風を見た時にほんの僅かの疑いを抱いたので失敗したと見たのです。

船の中のものはどう見たか

そこで、舟の中の者たちはどうこのことを見たのでしょうか。そこではおそらくペテロに対する賞賛の言葉でしょう。「ペテロ

よ。あなたはやはり偉い。一度溺れかかったけれども立ち直ることができた。」しかし、沈みかかったペテロは自分で水の中から這い上がったのではないのです。沈みかかるペテロに手を伸ばされたのは、主イエスでありました。イエスがみ手を伸ばしてペテロを水の中から引き揚げたのです。

イエスの行動について（22節以下）

このマタイの福音書を読んでみますと、こう書いています。「それから、イエスは群衆を解散させておられる間に、しいて弟子たちを舟に乗り込ませ、向こう岸へ先におやりになった。そして群衆を解散させてから、祈るためにひそかに山へ登られた。夕方になっても、ただひとりでそこにおられた」、「祈りためにひそかに」と。つまり、「祈るためにただひとり」ご自分だけ山に登られた。どのようにして祈られたかよく判りませんが、想像することが許されるとするならば、この山にあって主イエスはひれ伏して、神に祈られたのではないでしようか。弟子たちの弱さを知っておられたので、そのためにも祈られたのだと思います。

主に従って行く者たち

ある人々は、なぜ主イエスは山の上に登られたのだろうと問います。山の上からだ、湖の上に行く弟子たちの舟が見えたのではないかと想像します。しかし、この話は夜の出来事です。ですから、舟は見えないのです。22節以下の物語、これは主イエスに従って行く者たちが、主イエスに従うということがどういうことであるかを学んだ物語であると言えます。嵐に悩まされる弟子たちをおそらく助けるためでしょう。主イエスが海の上を歩いて近づかれるとき、弟子たちは幽霊と思ったのです。主イエスも含めて水の上を歩く人間はいない

と彼らは思っているからです。幽霊と間違ったイエスは、恐れるべきものでしかない。そのように恐れる弟子たちを呼び覚ましたのが、主イエスのみ言葉でした。「しっかりするのだ。私である。恐れることはない」ここで最も大切な言葉は「私である」という言葉です。この「私である」という言葉は意味の深い重い言葉です。「私である」、「私がここにいる」というのです。「幽霊なのではない。私はわたし、私がここにいる」と、言っておられるのです。

ペテロはこの言葉に飛びついたのです。「主よ、あなたでしたか。もし、あなたならばあなたのみ言葉に従って、私はあなたのところに行くことができます」「私にはできないが、しかし、あなたが声をかけてくださればできます」。歩けるペテロはそう思ったのです。信仰とはそういうものです。信仰とは、イエスのみ言葉を信じるものです。イエスの命令にだけ生きるものです。これは、新約における大切な信仰の原点です。逆風の中でも、滅びの中でも、死の中においてでもです。ただペテロは、ここで逆らう風を見てしまった。風は見えないものです。それでも、その見えない風が呼び起こした波に脅えるのです。波が風を見せるのです。イエスに逆らう風があるかの如く見せる。そして、疑っている人間は脅えるのです。

疑いを抱き始めると

主イエスは27節で「安心しなさい。私だ。恐れることはない」と言われ、31節で「信仰の薄い者たちよ。なぜ疑ったのか」と問われました。疑うことと恐れることは同じです。私どもが疑いを抱き始めると死ぬことが怖くなります。主の命令に従うことが怖くなります。その疑いを吹き消して下さるのが主イエスご自身です。私たちの

疑いを吹き消すために主イエスは甦られたのです。一般的にはこう考えます。「主イエスのみ教えは分かる。十字架の愛も分かる。甦りさえしなかったならば、イエスの後について行くこと何でもない。甦りになったことまで信じなければならぬと、キリスト者になることが難しくなる。イエスについて行くことが困難になる。」しかし、それは逆です。私どもが本当に恐れなく疑いもなく、主イエスの弟子になることができることになるため、主イエスは湖の上を歩き、墓の扉を突き破って甦られ、私どもと共にいて下さるのです。

歩き続ける教会の姿が

逆風について舟に乗った弟子たちは、主イエスと共に反対側の岸にいます。そこにも病める者、悩める者がたくさんいたからです。そして、彼らは主イエスの上着の房にでも触れさえすれば癒される体験をしていました。そこに、イエスと共に舟を下りてなお歩き続ける教会の姿があります。ここに多くの方が集まっていることを、私どもは心から喜びたいと思います。教会に初めて来た人もあるかも知れません。信仰生活の長きを重ね、いささか心倦んでいる方もあるかも知れません。しかし、そのような誰にでも主イエスは共におられるのです。誰の疑いも誰の恐れも打ち破るために甦って今、ここにいて下さるのです。私たちは心を合わせ、声を合わせ、祈りを合わせ「あなたは神の子である。」と、申し上げたいと思います。

祈り

主を死人の中から甦らせた父なる御神。主が共にいて下さることを確信させて下さい。恐れを砕いて下さい。疑いを吹き消して下さい。風を見て脅える目と心とをあなた

が塞いで下さい。風でなく主イエスを見る目をあなたが与えて下さい。そうでなければ、生きていくことが出来ません。そうでなければ、死ぬことができません。そうでなければ、愛に生きることができません。そうでなければ、伝道に生きることができないのです。どうか主よ！すべての者に等しく御霊による感動を与えて下さいますように、主のみ名により祈ります。

(2010年11月19日礼拝奨励要約)

本校理事・元、福岡女学院理事長・全国ギデオ教会理事・北九州YMCA理事長・八幡西朝拝会責任者

第二期チャペル及び講義

□ チャペル

9/7	(金)	奨励	野村幸生校長
9/14	(金)	〃	塩屋 弘教師
9/21	(金)	〃	上島信弥教師
9/28	(金)	〃	角本尚彦牧師
10/5	(金)	〃	福田昌二弘師
10/12	(金)	〃	松谷曄介牧師
10/19	(金)	〃	廣川和行教頭
10/26	(金)	〃	鯨島則雄牧師
11/2	(金)	〃	木本正徳会長
11/16	(金)	〃	原田昌樹牧師
11/23		祝 祭 日	
11/30	(金)	奨励	門田典子牧師
12/7	(金)	〃	山口晶久理事長

□ 講 義

9/7	(金)		
本 科	預言者緒論①	塩屋 弘牧師	
研究科	個人伝道法①	上島信弥牧師	
9/14	(金)		
本 科	預言者緒論②	塩屋 弘牧師	
研究科	個人伝道法②	上島信弥牧師	
9/21	(金)		
本 科	預言者緒論③	野村幸生校長	

研究科	個人伝道法③	上島信弥牧師
9/28	(金)	
本科	預言者緒論④	廣川和行教頭
研究科	祈祷論①	山口晶久理事長
10/5	(金)	
本科	預言者緒論⑤	廣川和行教頭
研究科	祈祷論②	山口晶久理事長
10/12	(金)	
本科	聖文学緒論①	廣川和行教頭
研究科	旧約神学概論①	吉住和義牧師
10/19	(金)	
本科	教会音楽①	金谷めぐみ先生
研究科	旧約神学概論②	吉住和義牧師
10/26	(金)	
本科	教会音楽②	金谷めぐみ先生
研究科	旧約神学概論③	吉住和義牧師
11/2	(金)	
本科	聖文学緒論②	廣川和行教頭
研究科	旧約神学概論④	吉住和義牧師
11/9	(金)	
本科	信徒伝道論①	原田昌樹牧師
研究科	説教学演習①	野村幸生校長
11/16	(金)	
本科	信徒伝道論②	原田昌樹牧師
研究科	説教学演習②	野村幸生校長
11/23	(金)	祝祭日
11/30	(金)	
本科	礼拝学概論①	大原高久牧師
研究科	経済思想史①	増田 賜牧師
12/7	(金)	
本科	礼拝学概論②	大原高久牧師
研究科	経済思想史②	増田 賜牧師

祈りは弛み無く続く

理事長 山口晶久

1985年本校創立の折に、福音宣教の業のゆえに三つの願いがなされた。第一は、

「聖書学校の設立」、第二は「海外宣教に関わる」、そして「宣教ホームピスガ建設」である。この願いは、本校関係者及び同窓会幹事の兄姉と共に、毎月第一金曜日の礼拝後に弛み無く祈り続けられている。

すでに200名近くの兄姉が、本校で学び卒業生修了生として巣立ち、その中から牧師・伝道者も生まれている。1993年11月、廣川和行師一家を宣教師として諸団体と共に米国カリフォルニアに2年間日系人教会設立と牧会のために派遣し、また本校主催ピスガ聖会開催により韓国教会と宣教交流も継続されている。第一、第二の祈りはすでになえられ継続を見ている。

記録によると、2000年5月27日(土)、第一回の宣教ホーム建設の祈りが四名の兄姉と共に始められた。2003年、本校創立20周年記念事業として、度重なる検討の結果、宣教ホーム建設用地取得の祈りと献金(募金)が開始された。多くの方々の祈りと献金がなされたが、2005年までの土地取得のための募金目標には程遠く、現実味を帯びない現状に陥った。

そこで、2010年3月、本校理事会が開かれ建設規模を小さくし、建設用地取得購入が企画提案され決議された。その後、幾度も建設候補地が挙げられたが、諸問題で断念することを求められた。しかし、2011年12月、JR鹿児島本線水巻駅徒歩2分と利便性も良く、環境良好の土地180坪を購入することが出来た。

宣教ホーム建設の具体的祈りから早12年が過ぎた。すでに、建築設計図の検討に入っている。概略図が準備され宣教ホームピスガ建築委員会が組織される。ご加禱を心より願います。

編集後記

仲秋の候 ご支援に深い感謝を申し上げます。